

事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です。

本人氏名 猪苗代 太郎 さん

記入者 相談支援センターひまわり 相談支援専門員 六本木はやと さん

事例タイトル	父親と弟との暮らしが困難になり、グループホームと就労継続支援 B 型を利用しながら地域で生活することを希望している事例
相談経過の要約	太郎さんは、A市で 2 人兄弟の長男として出生。初語や歩行が少し遅かったが、3 歳児健診など法定健診では特に保健師の指摘事項は無かった。小学校の1～2 年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立てて教室内を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあった。 小学校 3 年生からは、A 市教育委員会が実施する就学指導審議会を経て自閉症・情緒障がい児特別支援学級に移った。小学校 6 年生の秋に、他の生徒との学力の差、学習環境に馴染めないこと等から、担任からは、中学は特別支援学校への進学を勧められた。その際、児童相談所定期相談会の判定を受け、診断名は「自閉症・軽度の知的障害」であった。 中学は A 市内にある知的障がい特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し部活動では楽しく過ごしていた。太鼓部の顧問は、太郎さんのできるところは積極的にほめて、苦手なところは根気よく教えてくれた。また昆虫も大好きで、図鑑を見たりしている時は周りの声が聞こえないほど集中していた。同じクラスに昆虫好きの友達がいた。父親が大工だったこともあり、太郎さんも木工に興味をもって犬小屋をつくった。 太郎さんが中学校2年生の秋に両親が離婚。母親が統合失調症で自分のことでせいっぱいで家族の面倒をみられなくなり家を飛び出してしまった。以後、父親と弟の 3 人暮らしとなった。その後、太郎さんは母親と 1 年に 1～2 回は会っている。離婚後、父親は家のことを何とかこなしていたが、徐々に家の中が乱雑になり、太郎さんも学校を休みがちになった。 太郎さんは、特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司がいて太郎さんも素直に対応した。上司がわかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、1 年後に上司が変わり、その上司が他の職員の対応に追われて、太郎さんにあまり気を配らなくなった。それから半年後に、太郎さんは「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などの不安を訴え、工場に通えなくなり、そのまま退職してしまった。それ以降「誰とも会いたくない」と話して、求職活動もなかなかできず自宅でのひきこもり状態の生活になっていた。 太郎さんが退職して半年後、大工をしていた父親が通勤途中に交通事故にあい大けがをした。父親も右半身に麻痺が残り、仕事ができなくなった。最初のころは貯蓄で何とか生活していたが、すぐに生活保護となった。それまで父親が家事などを行っていたので、さらに乱雑な状態となり、食事も偏りが見られた。 父親から「太郎の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があり、太郎さんも「お父さんと離れて、自分で生活できるようになりたい」と希望した。太郎さんは、相談支援センターひまわりで相談を始めて、見学等も行中「相

	談しながらやっていきたい」「今は朝も起きられない」「掃除や洗濯、調理もできない」。でも、「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」し「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援 B 型事業所に通所することを希望した
年齢・性別・家族構成・家族状況・現在の居住歴	年齢 22 歳 性別(男性) A市で生まれ。 家族構成 父:もともとは大工。以前はとても面倒見が良かった。現在無職 交通事故で右半身に麻痺が残る。何とか自分のことはこなせるが、子どもたちの世話をすることができなくなっていた。太郎さんの施設入所を考えていたが、太郎さんの「自立したい」という気持ちを知り、太郎さんには福祉サービスを利用して自立してほしいと思っている。 母:A 市から少し離れた B 市に居住。生活保護を受給して一人暮らし。統合失調症の治療中で、太郎さんとの同居は難しい。年に 1～2 回太郎さんと会っている。 弟:5 歳下。高校 3 年生。高校卒業後は就職する予定だが、兄の面倒までは見られないとのこと。
手帳・区分	療育手帳 障害程度は軽度 B 判定 障害支援区分 非該当
生活歴及び病歴	【生活歴】 A市で生まれ育つ。初語や歩行は少し遅かったが、特に保健師からの指摘事項はなかった。小学校 3 年生から自閉症・情緒障がい児特別支援学級に通学、中高は知的障がい特別支援学校に通学。好きなこと(木工や昆虫図鑑を見ること)は集中して取り組むことができるが、興味が無いと席に座っていることができない。また中学・高校は太鼓部に所属し、地域の演奏会などに参加。友達も数人いたが、自分から積極的に作るタイプではなかった。どちらかという受け身の性格であり、話かけられるのを待つ方だった。困りごとがあっても相談できない。面倒見の良い人がいると素直になって長続きする。 仕事はしたいと思っていたが、またうまくいかないのではないかと考えて、求職活動はできずにいた。 【病歴】 中学校進学時に、児童相談所で判定を受け療育手帳を取得。仕事を辞めた後、自宅で引きこもった生活をしていた。生活保護の担当 CW の勧めもあり、精神科病院に受診。診断名は自閉症・知的障害。眠剤と安定剤を 1 日 1 回処方されて飲み始めた。受診してからは、夜少し眠れるようになったと話す。
経済状況	障害基礎年金申請中 補足給付:家賃 10,000 円(申請中) 生活保護受給。
相談に至る経緯	父親から太郎の生活の面倒が見られないので、施設に入所させたいと市役所に相談。
望んでいる暮らし	太郎さんの希望は、「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」「自分のことは自分でできるようになりたい」「困りごと相談したい」「将来は一人で暮らしたい」と思っているが、「今は朝もなかなか起きられない」し「掃除や洗濯、調理もできない」ことに困っている。そのため、「3 年後ぐらいにはまた働きたい」「今は働くことの自信はないので力をつけ

別紙1

	たい」「1人でコツコツと集中できる作業が好き」「働くときには優しい上司がいるところが良い」と話している。友達がうまくつぐれないことを気にしていて「一緒に遊ぶ友達が欲しい」「昆虫の話ができる友達ができたら最高」と言っている。 自分で自立した生活というイメージがまだ持てていないが、周りの人の協力が得られれば、十分地域で生活できると、生活保護の担当者は考えている。 太郎さんは、「3年後には普通に仕事をして立派な男になりたい」と言っている。
本人の状況と最近の様子	太郎さんは、こちらから話かけるとボソボソと返答するが、話をするのは好きな様子。太郎さんからの質問はほとんどない。太郎さんの見た目は年齢相応の好青年である。ただ生活に困窮しているので、服装には少し汚れが目立っていた。相手の話を「はい、はい」と返事をするので、分かっているように見えるが、なかなか理解はできない様子。
その他	父親の右半身に麻痺が残り、これ以上の回復は望めない状態。 弟は、普通高校に通い、健康状態の問題は特に無い。

アセスメント表

記録:相談支援センターひまわり 相談支援専門員:六本木はやと

相談日時	令和〇年〇月〇日 13時～15時
氏名等	猪苗代 太郎氏、22歳 男性 知的障害(軽度) 障害支援区分 非該当 (月1回精神科受診)
望んでいる暮らし	全体 「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」 「困りごとは相談したい」 「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」 生活面 「自分のことは自分でできるようになりたい」 「将来は一人暮らししたい」が「今は朝もなかなか起きられない」し「掃除や洗濯、調理もできない」 「一緒に遊ぶ友達が欲しい、昆虫の話ができる友達ができたら最高」 就労面 「3年後ぐらいにはまた働きたい」 「今は働くことの自信はないので力をつけたい」 「1人でコツコツと集中できる作業が好き」 「働くときには優しい上司がいるところが良い」
心身の状況	身長 175 cm 体重 80 キロ 特に問題ない。太郎さんは最近肥満体形になってきているのを気にしている。
精神面の状況	突然怒り出したりすることは、以前に比べれば少なくなってきた。ただ自分のペースを乱されたり、急かされたりするとイライラする感じが見られる。 見た目は大人しそう。高校時代の担任の先生は「普段は、穏やかに過ごしていた」「集中し

【基礎研修概要】

別紙1

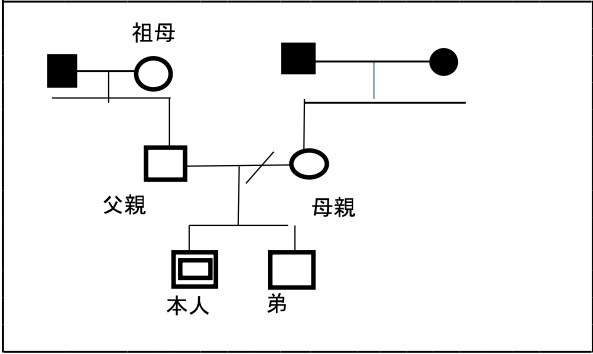
	ている時は、周りの声も耳に入らない」と言われていた。父親を尊敬していて世話になったと思っている。
生活の自立度	朝起きるのが苦手で生活リズムがなかなか安定していない。ADLは自立している。家事は手先が器用なので練習すればできるようになるのではないかな。やり方や手順について確認する必要がある。
気持ちの自立度	家を離れた暮らしは全く経験したことがないので、始めは戸惑うこともあると思われる。また、自分の思い通りにならないと、他の方とトラブルになる可能性もあるので、イライラしそうなときには早めに職員に伝えられるとよい。
服薬状況	夜、寝る前の処方のみ。自分で薬の管理ができるように練習している。
経済状況	【収入面】 生活保護 【支出面】 グループホームの費用 家賃 30,000 円(家賃補助 10,000 円) 食費 20,000 円 光熱水費 15,000 円 日用品費 3,000 円 生活費(おこづかい)20,000 円 金銭管理は、仕訳を手伝えばその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物(菓子・ケーキなど)買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。
趣味	昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。菓子・ケーキ等の買い物など
キーパーソン	父親。交通事故で右半身に麻痺があり自分のことで精一杯な様子。
家族	父方母方の祖父母について 父方の祖母は県外(遠方)にいるが、母方の祖父母は他界している。 両親と暮らしていたころは、年1回は家族で父方祖父母に会いに行っていた。
就労	手先が器用で興味をもつと集中できる。また、面倒見がいい人の話は素直に聞くことができる。しかし、以前の工場での仕事の経験から「人に会うのが怖い」「また注意されるのが心配」と不安感を述べる。「1人でコツコツと集中できる作業が好き。」「働くときには優しい上司がいるところが良い」「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」といずれしっかり働きたいという意欲はある。移動手段は、徒歩。公共交通機関は、これまでほとんど利用したことがないが、練習しだいでは利用できそうである。

アセスメントシート								
氏名		猪苗代 太郎		記入 相談支援専門員		六本木はやと		
日常生活面	項目	介助が いるか	程度	項目	介助が いるか	程度		
	起居動作	起き上がり	☐		衛生保持	手洗い	☐	
		寝返り	☐			爪切り	☐	
	姿勢保持	座位	☐			耳掃除	☐	
		立位	☐			月経	☐	
	移動	屋内	☐		行排為泄	排尿	☐	
		屋外（徒歩）	☐		排便	☐		
	衣類着脱	着脱行為	☐		食事全般	飲食行為	☐	
		服装の選択	☐			食事状況	☐	
	整容行為					食事の後片付け	☐	
			調理	☒	やったことがないので支援が必要			
			安全確認	☒	やったことがないので支援が必要			
			入浴全般	入浴の準備と片付け	☐			
				入浴	☐			
		家事全般	洗濯	☒	やったことがないので支援が必要			
	洗濯物干し		☒	やったことがないので支援が必要				
	掃除		☒	やったことがないので支援が必要				
	衣類整理		☒	片づけなどは苦手、声掛けが必要				
	所持品整理		☒	片づけなどは苦手、声掛けが必要				
				ペットメイク	☐			
特記事項								
父親がある程度身の回りのこと（調理、洗濯、掃除など）はやってくれていた。太郎さんは、積極的に身だしなみを整えたり、片づけたりすることも苦手だが、声掛けがあればなんとか自分で行える。物が多く、部屋に服や小物類が溜まってしまう。日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。家事をやった経験が乏しいが、援助があればできるようになると予測できる（これまでの生活の様子から、父親が予測）。朝起きるのが苦手なので、就労継続支援B型の事業所に通う時には遅刻が頻回になることが心配される。								
コミュニケーション	困ったときに相談しているところ 生活上の支援機関、支援者など 相談支援センター「ひまわり」 ……サービス等利用計画作成 相談支援 就労センター「スマイル」 ……利用予定の就労継続支援B型 グループホーム「ピアハウス」 ……利用予定のグループホーム 西村病院（内科・精神科） ……外来通院先 意思の表現方法 言葉でのコミュニケーションが十分できる。最初の上司が仕事を教えていた時は、時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人も安心して仕事ができていた。手順が分かれば、呑み込みが早い。ただ自分から積極的に質問するタイプではなく、困ったことや心配なことがあっても自ら相談することができなかった。周りの人は分かっていると思って仕事をすませてしまうので、本人は分からずに少し混乱してしまうことがあった。							
社会参加・移動	好きなこと 昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。買い物やゲームなど 嫌いなこと 怖そうな人・すぐに怒りそうな人 移動の方法 徒歩 これまで公共交通機関を利用する機会はなかったが、練習すれば利用できそう							
家庭生活	グループホームで生活をする予定 家庭での主な介護者 父親 介護者の状況 もともとは大工。交通事故で右半身に麻痺が残り、自分のことをこなすことで精一杯な状況。							
経済状況	主な生活財源 生活保護受給中。 就労による収入 0円／月 預貯金 0円 ☒ 基礎年金申請中 ☐ 障害者特別手当 ☐ その他 金銭管理は、仕訳を手伝えればその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。							

項目	介助が いるか	程度	特記事項	
行動面	行動面での 障害1	こだわり行動	☒	自分の手順があり、変更されるとパニックになる
		徘徊	☐	
		無断外出 無断外泊	☐	
		錯覚・幻視・幻聴	☐	
		被害妄想	☒	近所の人たちからバカにされていると思っている。
		自殺願望・企画	☐	
		不潔行為	☒	声掛けがあれば身だしなみを整えるが、放っておかれると着替えたりできない。
		異食行為	☐	
		収集癖	☐	
		物忘れ	☐	
		反社会的行為 (盗癖、虚言など)	☐	
	行動面での 障害2	自傷行為	☐	
		他者に対する 暴行為	粗 ☐	
		器物に対する 暴行為	粗 ☐	
		奇声や騒がしさ	☐	
		パニック	☒	物事の進め方が分からないと起きる。
		多動・行動の停止	☐	
		思考障害	☐	
	感情・ 障害・ 思考	感情不安定	☒	困ってしまうと感情も不安定になる。
過大・過小評価		☐		

《その他》

主治医からは、薬は軽いものなので、生活が安定し、精神的に安定すればいずれ必要がなくなるかもしれない。本人が困っている時に、周りが気づける関係性ができると、これ以上の薬の必要性はないと言う。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。



「学齢期の情報」

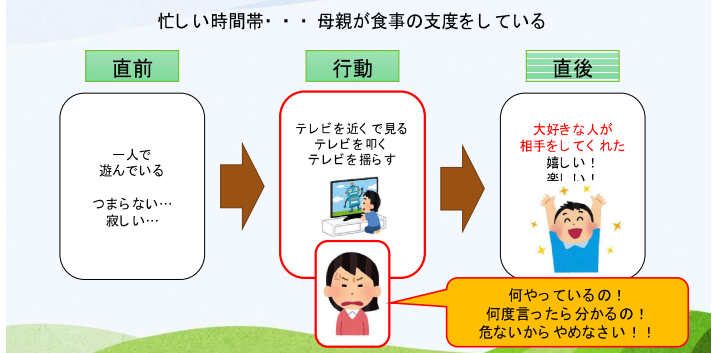
※以下の情報については、担当の相談支援専門員が太郎さんの過去のことを知る関係者を探し、情報を得たものである。

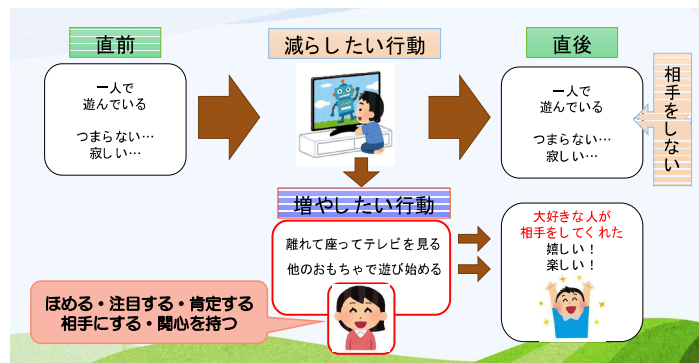
小学 6 年生の時に受けた児童相談所における判定状況	IQ68 といった記録はあるが、詳しい発達検査のデータは不明。診断名は「自閉症・軽度の知的障害」
自閉症・情緒障がい児支援学級小学 3 年の時の元担任からの情報	小学 1～2 年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立てて教室内を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあった。 小学 3 年生からは、就学指導審議会を経て自閉症・情緒障がい児特別支援学級に移った。なかなか環境に馴染めない等もあったが、元担任の先生としては、試行錯誤しながら様々なやりとりやエピソードがあり、成長を感じることも多々あった。 ～エピソード～ 「太郎くんが小学生の頃は、色々なことに興味を示したり、意欲的だったり、好奇心はあり、活発な子だった。 独特な考え方や My ルールなんかもあり、話をしたり関わったりする中で、特別支援の教師としてもたくさんのことを学ばせてもらっていた。 太郎くんは、『管理』と『指導』を受け付けにくいお子さんだった。提案を受け入れることはあるが、自分で決めて、自分で行動しているという状態が一番安定するようだった。」 「そんな太郎くんとの思い出の 1 つとして、朝の会と帰りの会で『グッド＆ニュー』という取り組みをやっていた。24 時間以内に経験したグッドなことや、新しい発見なんかを話す時間…。もちろんパスしても OK。太郎くんは、始めてからずーっと『パス』していた。 ある日、国語のテストをやり、答え合わせを求めてきたので採点したところ、85 点だったので、あと 15 点分をやり直すと 100 点になると提案した。太郎くんは、それを受け入れたのだが、正解が出せなかった。国語なので、問題文の『ここに答えが隠れているよ』と指をさして示しても太郎くんは教えられたくないの、受け入れることが出来なかった。 教えられたくないけど、分からないのでイライラがつり、考えることもやめ、全機能停止状態になってしまった。 教室のクールダウンゾーンに移動してもらい、落ち着いてもらったところぐらいで、こちらをチラ見している気配あり。そこで、紙飛行機を作って太郎くんが潜んでいるクールダウンゾーンに飛ばしたところ、すぐに紙飛行機が帰ってきた。 その後、紙飛行機のやりとりを数回続けたところ、 『これ…どうやって作るの?』という質問…。 『習いたい?』と聞くと、『教えてほしい』と言う太郎くんらしくない返答が返ってきた。 それから、5 機の紙飛行機をレクチャーを聞きながら作った。

【基礎研修概要】

	そしてその日の帰りの会の『グッド＆ニュー』の段で、太郎くんは、『先生と作って飛ばして楽しかったです！』とはじめてスピーチしてくれた。その時は、平然を装って『いいね』したが、太郎くんの少し恥ずかしそうな、そしてどこか誇らしげな表情を見て、涙が出そうになった。」 と先生は、様々な感情や葛藤の中で闘っている太郎くんだが、『好きなこと』や『興味があること』には、苦手なことも出来るようになる力を持っていることを感じ、その後の学習や活動の参考となるエピソードであり、精一杯サポートしたいと思った・・・と当時を振り返りお話してくれた。
教育関係者からの情報	中学の太鼓部の顧問だった先生より、「中学一年の頃は、よくしゃべる子だった。張り切って何でもやりたがる子だった。幼い頃は、よく動き回る子だったと母親から聞いたことがある。」という話があった。
中学に入学後に母親と相談に行ったことがある専門機関からの情報(その後、年に一回のペースで数回その機関に通っている。離婚後もしばらく母親が連れて行っていた。	「母親がとても心配そうに太郎さんを連れてきて、『太郎はやさしい子です。でも乱暴なところがあるからと、学校から追い出されてしまったんです。何ができていないかを知りたいのです。』と訴えてきたので、印象に残っていますとのこと。(以下のことは、5年前の高等部二年生の時の状態について、聴取したことをまとめたもの。) 【日付、時刻】 よく理解できている。 【数、数量】 計算には時間はかかるが、二桁までの加減は大体良好。三桁になると難しい。買い物の時には、大きな金額の札で支払いおつりをもらっていた。 【書字】 筆圧が弱く、読み取れない字も多く、線が一本抜けていたり、多かたりする。筆順は自分なりの書き方。 【読み】 一、二行の文章はわりとすんなりと読むことができていた。難しい漢字でも知っているところがあった。読み違い(勝手読み)は目立っていた。 【聞き取り】 一対一での指示は入る、集団における指示はほとんど入らない。特に周囲で誰かが話していると、その話にも気をとられてしまう。三人以上で話し合うことはかなりストレスになる。早合点してしまうことも目立つ。 【話すこと】 慣れた相手だと、早口になる。順序立てて話をするのが難しく、何が言いたいのか周りに伝わりにくいことがある。 【比較・推測すること】 予想することは苦手。どうすればいいのかを考えて、自分の考えを述べることも難しい。自分の意思を言葉で表すことはできるが、誰かに言われたことをまねているだけのことも多い。また、世間話をしている中で、ふとこんな話をしていたとのこと。 ～エピソード～ 小学生の時のある日、スーパーに行った際に、太郎が喉が渴いたと言ったの

	で、 「好きな飲み物持っておいで！」 と私が声をかけると、太郎はコーラを嬉しそうに手に持ち、買い物カゴに入れました。私は太郎に、 「ん～、こっちの方が美味しいと思うな～！」と言って、麦茶を見せると「うん！」と何事もなく何も言わずに受け取り、カゴに入れました。 あとから何気なく思い出したことだったのですが、父と買い物に行く時にはコーラやその他ジュースを買ってくることもあったのですが、その後私と買い物に行った際には、いつも飲み物は麦茶を選んでいてことに気付いたんです。 私はその時、「好きな飲み物」と言っておきながら、何気なく麦茶を勧めたのですが、母としてどうだったかなーと少し考えてしまいました…。 という話を聞かせてもらうことが出来た。 その出来事が今現在の太郎さんにどう影響しているかは分からないが、太郎さんは、働くことや生活をする中で、人や環境等に影響されながらも、自分で考えて、悩んで、自分で決めるということを成功体験として重ねていながら、太郎さんが何を考えどうしていきたいと思っているのかを、太郎さん自身が発信出来るような関わりや支援が必要なのだと、改めて相談支援専門員として感じた。 (また、支援者として、利用者様の選択肢を狭めてしまうことや、誘導、決まりきった選択肢を与えてしまっていることはないかな～と振り返り、少し反省した…)
特別支援学校高等部の元担任からの情報	【指導上の留意点について】 ① 同じような内容のことについても、理解できているときと、そうでないときの差が大きい。特に集団の場面では、話したことが届かないことは多かった。 ② 自分で、できないときに、なかなかヘルプコールが出せない。 ③ 教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。 ④ 人に認められたい気持ちはとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。 ⑤ なかなか伝えたことが身につかない時に、繰り返し丁寧に声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。 【支援目標を達成していく上で効果が認められたこと】 ① 作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5～6工程の内容でも対応できることは多かった。 ② やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように、写真を

お父さんからの情報 	添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。 小さい頃を振り返りながらお父さんに聞いた情報。 小学生のころは、母親の気を引こうとする行動や、買い物の際にお店で『お菓子がほしい』『おもちゃがほしい』と涙を流したり寝そべったりして暴れることもあり、外出も大変だったとのこと。 学校の個別懇談の時に先生に子育てについて相談すると、アドバイスをもらったことが今でも記憶に残っているとのこと。それから心も身体も成長し、少しずつ行動も落ち着いていったとのこと。 【相談内容】 ■ どうしてイタズラばかりするのか… ■ 何を考えているのか分からない… ■ なんて言うことを聞かないのか… ■ どうしてわからないんだろう… ■ 子ども(太郎)の気持ちが分からない ～エピソード～ 特に母親が忙しくしている時間帯、夕飯の支度の時間帯に多く見られた行動で、カーテンの開け閉めを何度も何度も繰り返す。また、何度注意してもテレビ画面に顔を近づけてテレビを観たり、画面を手でバンバン叩いたりすることが多かった。先生からのアドバイスは、母親が忙しくなる時間の前に母親と一緒にいる時にはそのような行動がなかったことから、上記のような良くない行動をしていない時や、別なもので上手に遊んでいる時に、『褒める』ことをしてみてもどうか？というものだったという。また、良くない行動をしている際には、危険が及ばない限り「相手にしない」ということを教えてもらった。 相談支援専門員として、そのエピソードを整理し、まとめることで、学齢期の様子などから見られる今現在の太郎さんの状態把握の参考にさせてもらった。 忙しい時間帯・・・母親が食事の支度をしている  <pre> graph LR A[直前 一人で遊んでいる つまらない... 寂しい...] --> B[行動 テレビを近くで見る テレビを叩く テレビを揺らす 何やっているの！ 何度言ったら分かるの！ 危ないからやめなさい！！] B --> C[直後 大好きな人が 相手してくれた 嬉しい！ 愛！！] </pre> 怒ったり声をかけたりすればするほど、母親の顔を見ながらテレビを叩いたり揺らしたりしていた。 この行動は… 『減らしたい行動』
---	---



離れて座ってテレビを見る、他のおもちゃで遊びはじめる
この行動は…

『増やしたい行動』

父曰く、太郎さんは褒められたり認められたりすると、「意欲」「自信」「やる気」につながる子だった。

食器拭きは、水滴 1 つ残さず、とてもきれいにバーテンダーのように拭いてくれる。そのことを褒めると、毎日の日課になったことを思い出したという。

また、洗濯機がぐるぐる回るのを見るのが好きであった為、洗濯機のスタートボタンを押すお手伝いや、片付けは苦手なところがあったが、掃除機が好きで長いと何時間も掃除機を引いてかけていたことから、掃除機がけのお手伝い等を提供していたという話が父から聞かれた。

「褒められる」「認められる」=『自信となりやる気につながりスキルになる』ことは、幼少期より蓄積された経験から成るものであることを確認できた為、今後の利用事業所等の関係機関にこれらのエピソードも含め情報共有したいと思っている。

サービス等利用計画(案)

利用者氏名	猪苗代 太郎	障害支援区分	非該当	相談支援事業者名	相談支援センターひまわり
障害福祉サービス受給者証番号	000XXX##	利用者負担上限額	0	計画作成担当者	六本木はやと
地域相談支援受給者証番号	000XXX???	通所受給者証番号	000XXX\$\$\$	利用者同意署名欄	
計画作成日	令和〇年 〇月 〇日	モニタリング期間(開始年月)	毎月、ただし3ヶ月(R1. 〇月～)		

利用者及びその家族の生活に対する意向 (希望する生活)	太郎さんは、特別支援学校の高等部卒業後一般企業で働いていたが「上司の注意が怖い。仕事に集中できない」と言って退職した後はひきこもりがちな生活をしていた。昨年、父親が交通事故で右半身に後遺症が残り、太郎さんの面倒を見られなくなった。太郎さんは、「お父さんに世話になったので迷惑をかけたくない」「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」「自分のことは自分でできるようになりたい」という希望を持っているが、「今は朝も起きられない」し「働く自信もない」のでそのための「準備をしたい」と思っている。また、「困りごととは相談したい」と言う気持ちがあり、一人暮らしに向けた準備をするためのグループホームの利用と就労に向けて準備をするための就労継続支援B型の通所を希望している。また、「昆虫の話ができる友達が欲しい」と思っている。 父親は「私も体が不自由になってしまい太郎の面倒はみられません。太郎には福祉サービスを利用して自立してほしい」と言っている。		
総合的な援助の方針	グループホームでは生活上の様々な経験を積み、就労継続支援B型では、仕事を継続するためのコツを身につけて自信をつける。また、生活上のことを相談できる力をつけることや、生活上の楽しみをみつけることで、「自分のことは自分でできるようになる」という目標が達成できるよう支援する。		
長期目標	① グループホームでは、掃除や洗濯、調理等の生活していく上での力をつける。 ② 就労継続支援B型事業所では、仕事を続けていくうえでの自信をつける。 ③ 相談する力をつける。 ④ この間に見つけた昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみを継続する。		
短期目標	① グループホームの日常生活に慣れる。 ② 就労継続支援B型事業所の作業に慣れる。 ③ わからないことや困っていることを相談する。 ④ 昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて相談する。		

優先順位	解決すべき課題 主訴(本人の希望)	支援目標	達成時期	福祉サービス等	課題解決のための 本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)			
1	グループホームで一人暮らしに向けた準備をした	グループホームの生活に慣れて、掃除や洗濯、調理等自分でできることを増やす。	12ヶ月	グループホーム 毎日	スケジュールを覚えて生活リズムを身に着ける。 掃除や洗濯、調理の仕方は、世話人さんに教えてもらいます。	3ヶ月	*朝なかなか起きることが苦手
	今は働くことに自信がないのでそのための力をつけたい。	いろいろな作業経験を積んで得意なことを見つ	12ヶ月	就労継続支援B型 月～金	就労継続支援事業所での作業を通して経験を増やします。	3ヶ月	
2	困りごととは相談したい。	生活のこと、仕事のことで困ったり、不安だったりを相談できるようにする	3ヶ月	グループホーム 毎日 就労継続支援B型 月～金 相談支援事業所 随時 病院 4週間に1回 土曜	グループホームで一日の出来事を報告します。 仕事については、就労継続支援事業所で相談します。 服薬をして定期的に通院します。	1ヶ月	
3	楽しみをみつきたい。	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴きます。	6ヶ月	グループホーム 就労継続支援B型 相談支援事業所	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴かせてください。	3か月	